

その際、休憩や自主的な研修、教育訓練、学習等であるため労働時間ではないと報告されていても、実際には、使用者の指示により業務に従事しているなど使用者の指揮命令下に置かれていたと認められる時間については、労働時間として扱わなければならないこと。

**オ** 自己申告制は、労働者による適正な申告を前提として成り立つものである。このため、使用者は、労働者が自己申告できる時間外労働の時間数に上限を設け、上限を超える申告を認めない等、労働者による労働時間の適正な申告を阻害する措置を講じてはならないこと。

また、時間外労働時間の削減のための社内通達や時間外労働手当の定額払等労働時間に係る事業場の措置が、労働者の労働時間の適正な申告を阻害する要因となっていないかについて確認するとともに、当該要因となっている場合においては、改善のための措置を講ずること。

さらに、労働基準法の定める法定労働時間や時間外労働に関する労使協定（いわゆる 36 協定）により延長することができる時間数を遵守することは当然であるが、実際には延長することができる時間数を超えて労働しているにもかかわらず、記録上これを守っているようにすることが、実際に労働時間を管理する者や労働者等において、慣習的に行われていないかについても確認すること。

#### **（４）賃金台帳の適正な調製**

使用者は、労働基準法第 108 条及び同法施行規則第 54 条により、労働者ごとに、労働日数、労働時間数、休日労働時間数、時間外労働時間数、深夜労働時間数といった事項を適正に記入しなければならないこと。

また、賃金台帳にこれらの事項を記入していない場合や、故意に賃金台帳に虚偽の労働時間数を記入した場合は、同法第 120 条に基づき、30 万円以下の罰金に処されること。

#### **（５）労働時間の記録に関する書類の保存**

使用者は、労働者名簿、賃金台帳のみならず、出勤簿やタイムカード等の労働時間の記録に関する書類について、労働基準法第 109 条に基づき、3 年間保存しなければならないこと。

#### **（６）労働時間を管理する者の職務**

事業場において労務管理を行う部署の責任者は、当該事業場内における労働時間の適正な把握等労働時間管理の適正化に関する事項を管理し、労働時間管理上の問題点の把握及びその解消を図ること。

#### **（７）労働時間等設定改善委員会等の活用**

使用者は、事業場の労働時間管理の状況を踏まえ、必要に応じ労働時間等設定改善委員会等の労使協議組織を活用し、労働時間管理の現状を把握の上、労働時間管理上の問題点及びその解消策等の検討を行うこと。

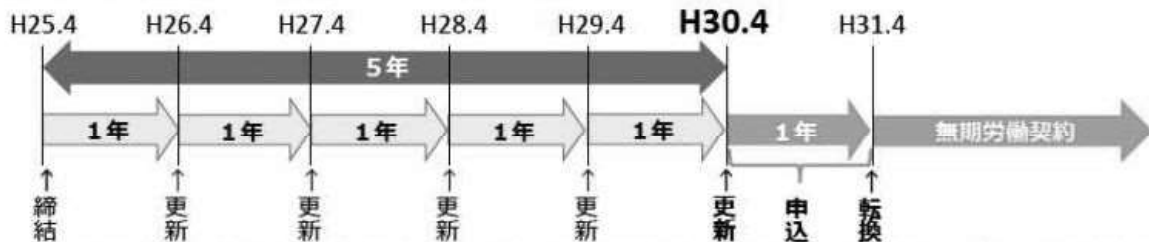
## ご存じですか？「無期転換ルール」 ～準備を始めましょう、就業規則の見直しや規定の整備～

### 無期転換ルールとは

- 有期労働契約が反復更新されて通算5年を超えたときは、労働者の申込みにより、期間の定めのない労働契約（無期労働契約）に転換できるルールです。

（労働契約法第18条：平成25年4月1日施行）

【平成25年4月開始で契約期間が1年の場合の例】



※ 無期労働契約の労働条件（職務、勤務地、賃金、労働時間など）は、別段の定めがない限り、直前の有期労働契約と同一となります。別段の定めをすることにより、変更可能です。

※これには例外があります。

## 高度専門職・継続雇用の高齢者に関する 無期転換ルールの特例について

- ①プロジェクトに従事する専門的知識等を有する有期雇用労働者
  - ②定年に達した後引き続いて雇用される有期雇用労働者
- については、特性に応じた雇用管理に関する特別の措置が講じられ、本社を管轄する労働局長の認定を受けた場合には、上記の無期転換ルールが適用除外になるという制度です。

従って、所轄労働局長の認定を受けていない場合には、①②の労働者であっても、上記の無期転換ルールが適用になります。

平成25年4月1日から1年以下の有期労働契約を更新している場合には、平成30年4月1日以降に無期転換申込権が発生いたしますので、申請はお早めをお願いします！

申請・お問い合わせは、岡山労働局雇用環境・均等室（Tel 086-224-7639）の有期特措法高齢者認定調査員へ

★厚生労働省ホームページも併せてご参照ください。

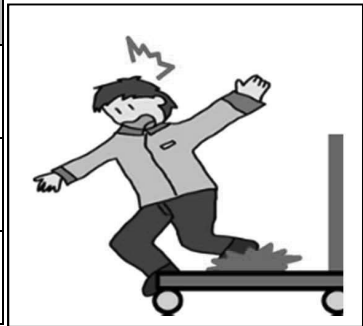
- パンフレット、条文、施行通達など

[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/roudoukijun/keiyaku/kaisei/](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/keiyaku/kaisei/)

# 腰痛・転倒災害を防止しましょう

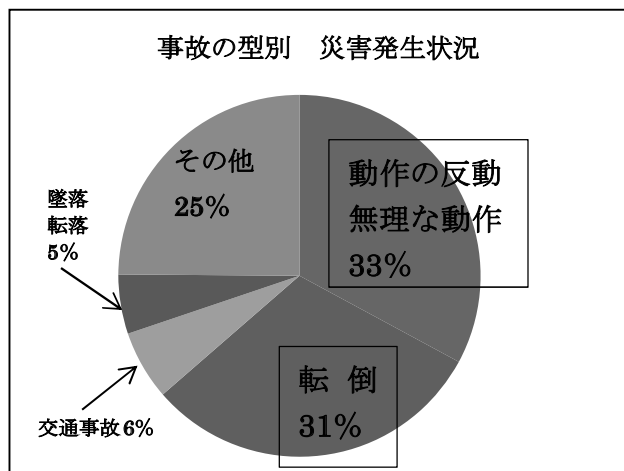
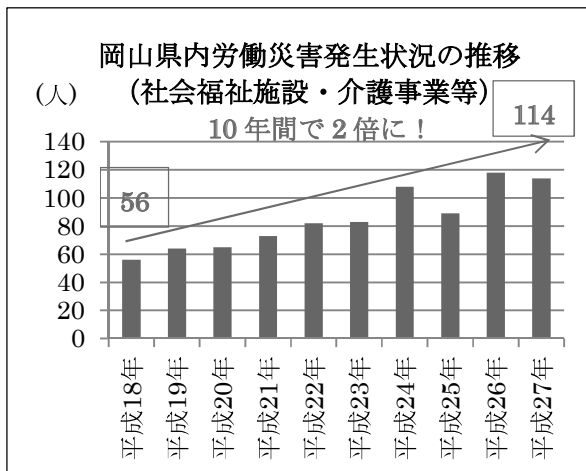
職場でこのような災害が発生しています！（平成26年労働者死傷病報告から）

| 経験期間 | 年代  | 岡山県内労働災害の例（腰痛）                                  |
|------|-----|---|
| 2ヶ月  | 40代 | 利用者の入浴介助中、利用者の両脇に手を差し込み抱え上げたところ、腰を痛めた。（休業見込7日）  |
| 5ヶ月  | 60代 | 入居者の尿取りパッド交換を中腰で行っていたところ、腰を痛めた。（休業見込10日）        |
| 10年  | 30代 | 入居者を乗せた車椅子を車両付属のスロープで押し上げていたところ、腰を痛めた。（休業見込2ヶ月） |
| 経験期間 | 年代  | 岡山県内労働災害の例（転倒）                                  |
| 1年   | 40代 | 調理場で片付け作業中、水で濡れていた金属製の排水溝で足を滑らせ転倒した。（休業見込14日）   |
| 10年  | 60代 | デイサービス利用者のシルバーカーに足を引っかけて転倒した。（休業見込1ヶ月）          |
| 11年  | 60代 | 訪問介護の利用者宅に生活用品を届ける途中、積雪した路面に足を滑らせ転倒した。（休業見込1ヶ月） |



## ポイント

- ◆ 岡山県内の社会福祉施設・介護事業等における労働災害は年々増加しており、10年間で2倍となっています。
- ◆ 事故の型別では「動作の反動・無理な動作」が33%、続いて「転倒」が31%と多く、この2つで64%を占めています。

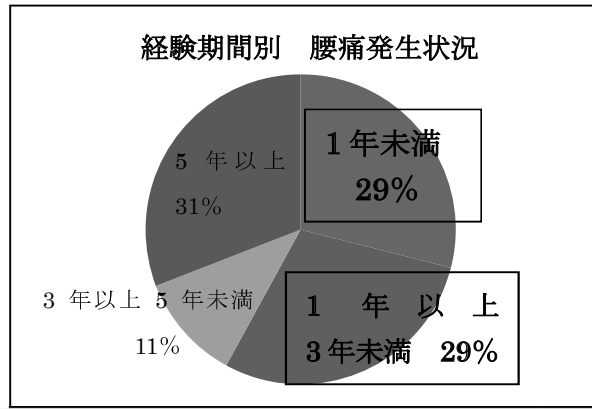
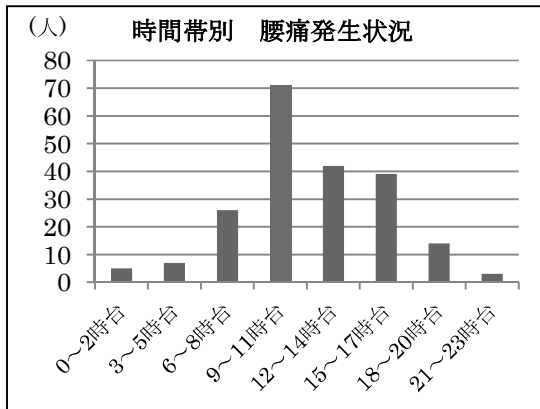


出典：労働者死傷病報告の休業4日以上死傷者数より（岡山県内：平成18年～平成27年集計分）



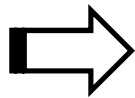
## 社会福祉施設・介護事業等における腰痛発生状況の特徴

- ◆ 9～11時台に多く発生しています。
- ◆ 経験年数3年未満の被災者が58%を占めています。



## 社会福祉施設・介護事業等における腰痛予防対策

- ✓ 腰痛予防のための労働衛生教育を実施する。
- ✓ 機械化による作業の自動化又は福祉用具を活用し作業者の負担を減らす。
- ✓ リスクアセスメントを実施し、合理的・効果的な腰痛予防対策を立てる。

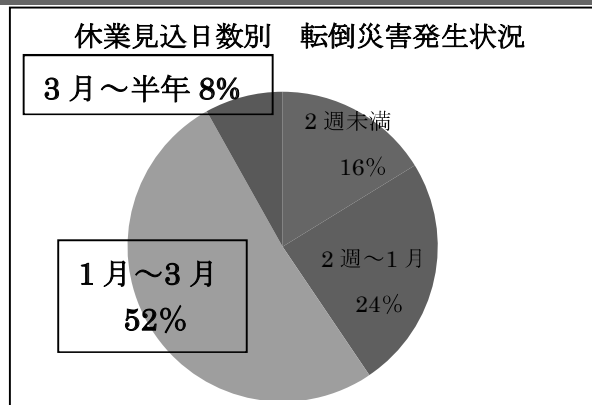
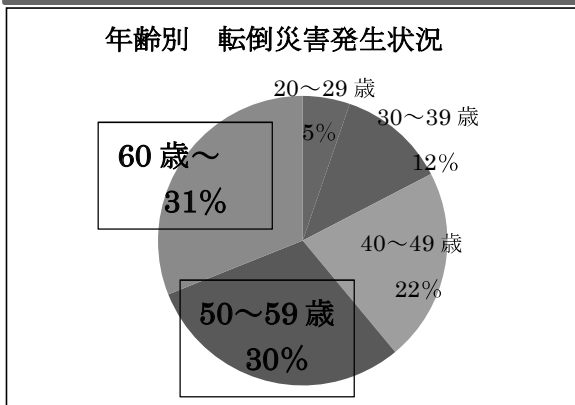


詳細は、「職場における腰痛予防対策指針」で **検索** 今年も終了しています。

- ◇ 平成29年1月25日に岡山県安全衛生会館で「腰痛予防対策講習会」が開催されます。お問合せは中央労働災害防止協会（☎03-3452-2517）へ。

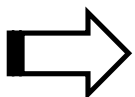
## 社会福祉施設・介護事業等における転倒災害発生状況の特徴

- ◆ 50歳以上の被災者が61%を占め、中高年齢の被災者が多くなっています。
- ◆ 休業見込期間が1月以上の被災者が60%と、長期休業になるおそれがあります。



## 社会福祉施設・介護事業等における転倒災害防止対策

- ✓ 4S活動（整理・整頓・清掃・清潔）で災害の原因を取り除く。
- ✓ KY活動（危険・予知）で潜んでいる危険を見つける。
- ✓ 「見える化」（危険を可視化して共有）で危険を全員に周知する。



詳細は、「STOP！転倒災害プロジェクト」で **検索**





# STOP! 転倒災害

---

## プロジェクト

# STOP!転倒災害

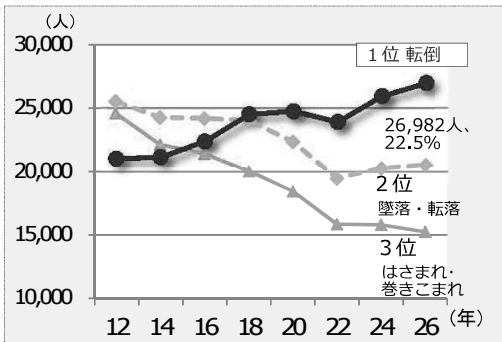
厚生労働省と労働災害防止団体では、**転倒災害**を撲滅するため「**STOP! 転倒災害プロジェクト**」を推進しています。

事業者の皆さまは、職場の**転倒災害防止対策**を進めていただくとともに、プロジェクトの重点取組期間（2月、6月）には、チェックリスト（最終ページ）を活用した**総点検**を行い、安全委員会などでの調査審議などを経て、**職場環境の改善**を図ってください。

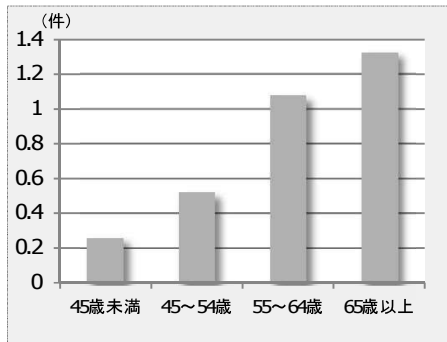
転倒災害は今、最も多い労働災害で、しかもその割合は年々増えています。また、長期の休業につながることも多く、深刻な問題になっています。

高齢者ほど転倒災害のリスクが増加し、55歳以上では1,000人に1人以上が被災しています。

転倒災害による休業期間は、約6割が1カ月以上となっています。



平成26年 厚生労働省 労働者死傷病報告  
「事故の型別死傷者数の推移」



平成26年 労働者死傷病報告と総務省労働力調査  
「年齢別転倒災害の発生率」  
(労働者千人当たりの転倒災害発生件数)



平成26年 労働者死傷病報告  
「転倒災害による休業期間の割合」




## 転倒災害の種類と主な原因

▶転倒災害は、大きく3種類に分けられます。皆さまの職場にも、似たような危険はありませんか？


| 滑り  | つまずき  | 踏み外し   |
|---|---|--|
|   |   |  |
| <p>&lt;主な原因&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>床が滑りやすい素材である。</li> <li>床に水や油が飛散している。</li> <li>ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている。</li> </ul> | <p>&lt;主な原因&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>床の凹凸や段差がある。</li> <li>床に荷物や商品などが放置されている。</li> </ul> | <p>&lt;主な原因&gt;</p> <p>大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態で作業している。</p> |

# 転倒災害防止対策のポイント

▶ 転倒災害を防止することで、安心して作業が行えるようになり、作業効率も上がります。できるところから少しずつ取り組んでいきましょう。

| 4 S<br>(整理・整頓・清掃・清潔)   | 転倒しにくい作業方法<br>「あせらない 急ぐときほど 落ち着いて」   | その他の対策   |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>歩行場所に物を放置しない</li> <li>床面の汚れ（水、油、粉など）を取り除く</li> <li>床面の凹凸、段差などの解消</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>時間に余裕を持って行動</li> <li>滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行</li> <li>足元が見えにくい状態で作業しない</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>作業に適した靴の着用</li> <li>職場の危険マップの作成による危険情報の共有</li> <li>転倒危険場所にステッカーなどで注意喚起</li> </ul>  |

## <転倒しないための靴選びのポイント>

|                      |  |   |
|----------------------|--|---|
| <b>サイズ</b>           | 小さすぎても大きすぎても踏ん張りがきかずバランスを崩しやすくなります。                                  |  |
| <b>屈曲性</b>           | 屈曲性が悪いとすり足になりやすく、つまづきの原因になります。                                       |   |
| <b>重量</b>            | 重すぎると足が上がりにくくなり、つまづきの原因になります。  |   |
| <b>重量バランス（前後）</b>    | つま先方向に重量が偏っていると、歩行時につま先が下がり、つまづきの原因になります。                            |   |
| <b>つま先部の高さ</b>       | つま先の高さが低いと、ちょっとした段差にも、つまづきやすくなります。                                   |   |
| <b>靴底と床の耐滑性のバランス</b> | 作業場所や内容に合った耐滑性であることが重要です。例えば、滑りにくい床に滑りにくい靴底では摩擦が強くなりすぎてつまづきの原因になります。 |   |

# 冬季は転倒災害が多発

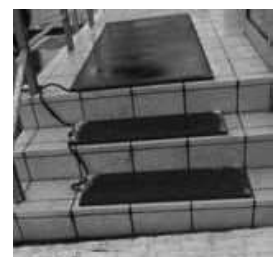
▶ 積雪・凍結などによって転倒の危険性が高まる冬季は、以下の対策が重要です。

### ◇ 天気予報に気を配る

寒波が予想される場合などには、労働者に周知し、転倒しにくい靴の着用を指示するなど、早めの対策を実施しましょう。

### ◇ 駐車場の除雪・融雪は万全に。出入口には転倒防止の対策を！

駐車場内、駐車場から職場までの通路を確保するため、除雪や融雪剤の散布を行いましょう。また、出入口には転倒防止用のマットやヒートマットなどを敷き、夜間は照明設備を設けて明るさ（照度）を確保しましょう。



<ヒートマットの設置例>

### ◇ 職場の危険マップの作成、適切な履物、歩行方法などの教育を行う

職場内の労働者が転倒の危険を感じた場所の情報を収集し、労働者への教育の機会に伝えるようにしましょう。また、作業に適した履物、雪道や凍った路面上での歩き方を教育しましょう。

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください！

「STOP！ 転倒災害プロジェクト」

STOP！ 転倒

検索

## あなたの職場は大丈夫？転倒の危険をチェックしてみましょう

### 転倒災害防止のためのチェックシート

| チェック項目 |   | <input checked="" type="checkbox"/> |
|--------|---|-------------------------------------|
| 1      | 通路、階段、出口に物を放置していませんか                        | <input type="checkbox"/>            |
| 2      | 床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか          | <input type="checkbox"/>            |
| 3      | 安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか             | <input type="checkbox"/>            |
| 4      | 転倒を予防するための教育を行っていますか                        | <input type="checkbox"/>            |
| 5      | 作業靴は、作業現場に合った耐滑性があり、かつちょうど良いサイズのものを選んでいませんか | <input type="checkbox"/>            |
| 6      | ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか   | <input type="checkbox"/>            |
| 7      | 段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていませんか          | <input type="checkbox"/>            |
| 8      | ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか                   | <input type="checkbox"/>            |
| 9      | ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか                | <input type="checkbox"/>            |

チェックの結果はいかがでしたか？ 問題のあったポイントが改善されれば、きっと作業効率も上がって働きやすい職場になります。  
どのように改善するか「安全委員会」などで、全員でアイデアを出し合いましょう！





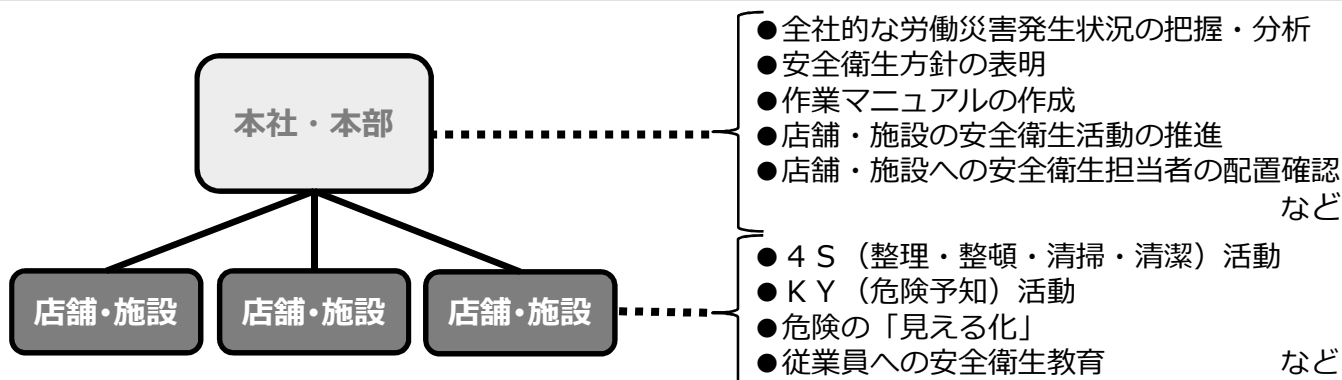
# 働く人に安全で安心な 店舗・施設づくり推進運動

～ 小売業・社会福祉施設・飲食店の労働災害の減少に向けて ～

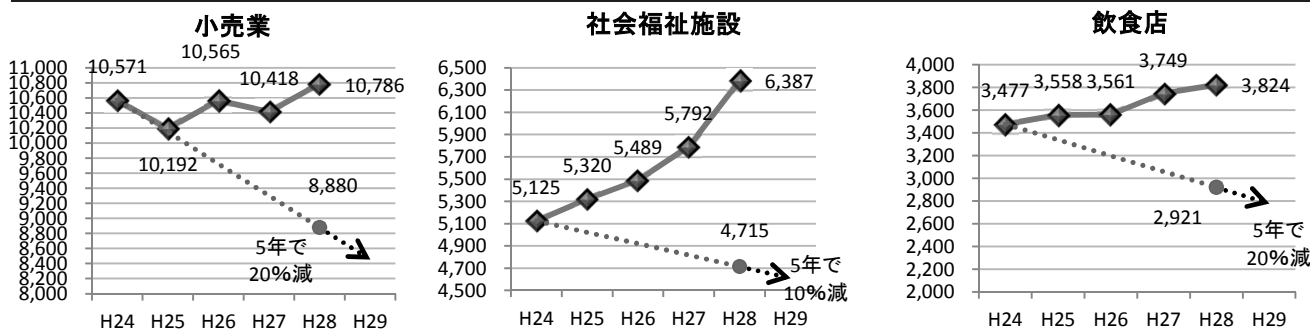
厚生労働省と中央労働災害防止協会では、小売業、社会福祉施設、飲食店において増加している労働災害の減少を図るため、「働く人に安全で安心な店舗・施設づくり推進運動」を展開しています。

これらの業種で効果的な労働災害防止対策を進めるためには、2・3ページに掲載の「チェックリストⅠ・Ⅱ」を活用し、多くの店舗を展開する**企業本社**、複数の社会福祉施設を展開する**法人本部が主導して**、店舗、施設の労働安全衛生活動について**全社的に取り組むことが重要**です。

3・4ページには、下図のような取組事項の具体例のうち、主なものをまとめていますので、ご参照ください。



## 増加する小売業、社会福祉施設、飲食店での労働災害



※休業4日以上での死傷労働災害件数(11月末現在速報値)、点線は第12次労働災害防止計画における目標値

## 小売業、社会福祉施設、飲食店で多い労働災害

| 転倒   | 急な動き・無理な動き  | 墜落・転落                            | その他   |
|--|---|----------------------------------|---|
| 「急いでいるときや、両手で荷物を抱えているときなどに、放置された荷物や台車につまずく」<br>「濡れた床で滑る」など | 「重いものを無理な姿勢で持ち上げたり、移動させたりするとき、介護で利用者を持ち上げるときなどに、ぎっくり腰になる、筋を痛める、くじく」など | 「脚立や、はしごなどの上でバランスを崩す」「階段で足が滑る」など | 「やけどをした」、「刃物で手を切った」、「交通事故にあった」、「通路でぶつかった」など |



# チェックリスト

## I

### 本社・本部実施事項

次の事項のうち、労働災害の発生状況等を踏まえ、必要性の高いものから取組を始め、順次、取組事項を拡げてください。なお、法定の義務事項に該当する重要な取組もありますので（衛生管理者の選任等）、その場合は特に速やかに実施する必要があります。

| チェック項目 |  | ☑                        |
|--------|--|--------------------------|
| 1      | 全店舗・施設の労働災害の発生状況を把握し、分析を行っていますか。   | <input type="checkbox"/> |
| 2      | 企業・法人の経営トップの意向を踏まえた安全衛生方針を作成し、掲示や小冊子の配布などの方法により店舗・施設に周知していますか。   | <input type="checkbox"/> |
| 3      | 店舗・施設の作業について、過去の労働災害発生状況を踏まえ、安全に配慮した作業マニュアルを作成して店舗・施設に周知していますか。  | <input type="checkbox"/> |
| 4      | 次の①～⑪の項目のうちから、店舗・施設で実施すべき安全衛生活動を定め、店舗・施設での取組を行わせるとともに、必要な資料の提供、教育の実施等の支援を行っていますか。                        | —                        |
| ①      | 4S（整理、整頓、清掃、清潔）の徹底による床面の水濡れ、油汚れ等の小まめな清掃、台車等の障害物の除去、介護、保育等の作業ができるスペース・通路の確保等による転倒・腰痛災害の防止                 | <input type="checkbox"/> |
| ②      | 作業マニュアルの店舗・施設の従業員への周知・教育   | <input type="checkbox"/> |
| ③      | KY（危険予知）活動による危険予知能力、注意力の向上   | <input type="checkbox"/> |
| ④      | ヒヤリハット活動による危険箇所の共有、除去  | <input type="checkbox"/> |
| ⑤      | 危険箇所の表示による危険の「見える化」の実施   | <input type="checkbox"/> |
| ⑥      | 店長・施設長、安全衛生担当者による定期的な職場点検の実施   | <input type="checkbox"/> |
| ⑦      | 朝礼時等での安全意識の啓発  | <input type="checkbox"/> |
| ⑧      | 転倒防止に有効な靴、切創防止手袋等の着用の推進、介護機器・用具等の導入と、使用の推進、熱中症予防のための透湿性・通気性の良い服装の活用                                      | <input type="checkbox"/> |
| ⑨      | 腰痛予防対策指針に基づく健康診断の実施  | <input type="checkbox"/> |
| ⑩      | 腰痛・転倒予防体操の励行   | <input type="checkbox"/> |
| ⑪      | 熱中症予防のための休憩場所・時間の確保  | <input type="checkbox"/> |
| 5      | 店舗・施設における安全衛生担当者（衛生管理者、衛生推進者、安全推進者等）の配置状況を確認していますか。  | <input type="checkbox"/> |
| 6      | 店舗・施設の安全衛生担当者に対する教育を実施していますか。  | <input type="checkbox"/> |
| 7      | 本社・本部、エリアマネージャーから店舗・施設に対する危険箇所や安全衛生活動の取組状況の点検、災害防止指導を実施していますか。（店舗・施設の監査チェックリストに安全衛生に関する項目を明記することなどがあります） | <input type="checkbox"/> |
| 8      | 安全対策の取組や注意喚起を分かりやすく従業員へ周知するための掲示や小冊子の配布を実施していますか。  | <input type="checkbox"/> |
| 9      | リスクアセスメント（職場の危険・有害要因を特定し、リスクの大きさを評価すること）を実施してその結果に基づく対策を講じていますか。   | <input type="checkbox"/> |
| 10     | 店舗・施設におけるメンタルヘルス対策について指導および実施状況の把握を行っていますか。  | <input type="checkbox"/> |
| 11     | 店舗・施設における健康診断および事後措置、長時間労働者への面接指導など、健康確保措置の実施状況を把握していますか。  | <input type="checkbox"/> |

# チェックリスト II 店舗・施設実施事項

本社・本部が定めた安全衛生活動を実施するほか、店舗・施設独自の取組を順次広げてください。

| チェック項目 |   | ☑                        |
|--------|---|--------------------------|
| 1      | 4 S活動（整理、整頓、清掃、清潔）の徹底による床面の水濡れ、油汚れ等の小まめな清掃、台車等の障害物の除去、介護、保育等の作業ができるスペース・通路の確保等による転倒・腰痛災害の防止を実施していますか。 | <input type="checkbox"/> |
| 2      | 作業マニュアルを店舗・施設の従業員に周知、教育していますか。  | <input type="checkbox"/> |
| 3      | K Y（危険予知）活動による危険予知能力、注意力の向上に取り組んでいますか。  | <input type="checkbox"/> |
| 4      | ヒヤリハット活動による危険箇所の共有、除去を実施していますか。   | <input type="checkbox"/> |
| 5      | 危険箇所の表示による危険の「見える化」を実施していますか。   | <input type="checkbox"/> |
| 6      | 店長・施設長、安全担当者による定期的な職場点検を実施していますか。   | <input type="checkbox"/> |
| 7      | 朝礼時等での安全意識の啓発を実施していますか。   | <input type="checkbox"/> |
| 8      | 転倒防止に有効な靴、切創防止手袋等の着用の推進、介護機器・用具等の導入、使用の推進、熱中症予防のための透湿性・通気性の良い服装の活用などを行っていますか。                         | <input type="checkbox"/> |
| 9      | 腰痛予防対策指針に基づく健康診断を実施していますか。  | <input type="checkbox"/> |
| 10     | 腰痛・転倒予防体操を励行していますか。   | <input type="checkbox"/> |
| 11     | 熱中症予防のための休憩場所・時間の確保を実施していますか。   | <input type="checkbox"/> |

## 主な取組事項の概要

### ① 経営トップによる安全衛生方針の表明

- ◆経営トップによる安全衛生方針を策定し、掲示や従業員への小冊子の配布などにより周知します。

### ② 4 S活動 = 災害の原因を取り除く

- ◆「4 S」とは「整理」、「整頓」、「清掃」、「清潔」のことで、これらを日常的な活動として行うのが「4 S活動」です。
- ◆4 S活動は、労働災害の防止だけではなく、作業のしやすさ、作業の効率化も期待できます。
- ◆お客様の目に触れにくいバックヤードも整頓を忘れないようにしましょう。
- ◆荷物やゴミなど、物が散らかっている職場や、水や油で床が滑りやすい職場は、災害の危険が高くなります。



策定例



策定日 平成●●年 月 日  
 揭示日 平成●●年 月 日

### 安全衛生方針

当社は、「『従業員の安全』は『お客様の安全』の礎である」との理念に基づき、安全衛生の基本方針を以下のとおり定め、経営者、従業員一丸となって労働災害防止活動の推進に努めます。

#### 安全衛生の基本方針

- ① 安全衛生活動の推進を可能とするための組織体制の整備、責任の所在の明確化を図る
- ② 労使のコミュニケーションにより、職場の実情に応じた合理的な対策を講じる
- ③ すべての社員、パート、アルバイトに安全衛生確保に必要なかつ十分な教育・訓練を実施する
- ④ 上記の実行に当たっては適切な経営資源を投入し、効果的な改善を継続的に実施する

会社名 株式会社●●スーパーマーケット  
 代表者 代表取締役 安全太郎

(自筆で署名しましょう)

### ③ KY活動 = 潜んでいる危険を見つける

- ◆ KYとは「危険（K）・予知（Y）」のことです。KY活動では、業務を開始する前に職場で「その作業では、どんな危険が潜んでいるか」を話し合っ「これは危ない」というポイントに対する対策を決め、作業のときは、一人ひとりが「指差し呼称」をして行動を確認します。
- ◆ 「うっかり」、「勘違い」、「思い込み」などは安全ではない行動を招き、災害の原因となります。



### ④ 危険の「見える化」 = 危険を周知する

- ◆ 危険の「見える化」とは、職場の危険を可視化（＝見える化）し、従業員全員で共有することをいいます。KY活動で見つけた危険のポイントに、右のようなステッカーなどを貼りつけることで、注意を喚起します。
- ◆ 墜落や衝突などのおそれのある箇所が事前に分かっている場合は、そこでは特に慎重に行動することができます。



### ⑤ 安全教育・研修 = 正しい作業方法を学ぶ

- ◆ 「脚立の正しい使い方」、「腰痛を防ぐ方法」、「器具の正しい操作方法」などを知っていれば、労働災害を防ぐことができます。
- ◆ 組織の本社や本部では、「どんな災害が起こっているか」、「どうしたら災害は防げるか」を踏まえ、「正しい作業手順（マニュアル）」を作成します。そして店舗・施設では、この内容を従業員に伝え、教えます。
- ◆ 朝礼など皆が集まる機会を活用して教育・研修を行う方法もあります。特に、はじめて職務に就いた従業員には、雇い入れ時に安全教育を行う必要があります。

### ⑥ 安全意識の啓発 = 全員参加により安全意識を高める

- ◆ 安全活動は、経営者や責任者の責務であるとともに、正社員、パート、アルバイト、派遣などの雇用形態にかかわらず、従業員は全員参加することが重要です。
- ◆ 従業員一人ひとりの安全意識を高めるために、朝礼などの場を活用して、店長・施設長から安全の話をすることや、従業員からヒヤリハット事例を報告してもらい、みんなで安全について話し合ったりすることなどが効果的です。

### ⑦ 安全推進者の配置 (労働安全衛生法施行令第2条第3号に掲げる業種における安全推進者の配置等に係るガイドライン)

- ◆ 店舗・施設ごとに安全の担当者である安全推進者を配置し、安全衛生活動、安全衛生教育・啓発の推進などの旗振り役を担わせます。

## 「働く人に安全で安心な店舗・施設づくり推進運動」特設サイト

<http://anzeninfo.mhlw.go.jp/information/sanjisangyo.html>

こちらも  
ご覧ください

●安全・衛生に関する主な制度・施策紹介 ●安全衛生関係のパンフレット一覧

安全・衛生

検索

安全 パンフ

検索

職場の安全活動についてのご不明点などは、厚生労働省ホームページをご覧ください。最寄りの都道府県労働局、労働基準監督署にお問い合わせ下さい。

# MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.